



ゆうメール

MAC NEWS

2026年 6月号



こんな時、どう言ったらいいの？

～わが子を『自立』に向かわせる声掛け～

MACでは、通ってくれた子たちが「自ら考え行動できる子」になってもらうため日々の指導にあたっています。・・・が、1週間で「分」に直すと10,080分、その中でMACが指導できるのはせいぜい幼児さんで60分、小学生でも80～160分程度です。

この時間だけで子供たちを別人に変える魔法は使えません。お子さんをどんどん伸ばしてあげるには、MACの指導に加え、多くの時間を過ごす**ご家庭での声掛け**が非常に重要になってきます。

今回はよくあるシチュエーションごとに適切な声掛けを紹介します。次のような場合、ご家庭ではどのような声掛けをされますか？

【situation①】

叱ってばかりの我が子を

「自立」した子に育てたい場合
(良い声掛け)

「あなたは どうしたいの？」

(悪い声掛け)

「親の言うことを聞きなさい！」

子供は叱られるとよく反抗しますが、我が子がこのような反応をしてきたら、一度自分の子供時代を思い出してみてください。時期が早いか遅いかの違いはあれど、多くの方は子供の頃、親やほかの大人に対して反発心を持ったことがあると思います。

恐らくその反発心は、「反抗」の感情というよりは、親や大人からの一方的な言い方に対する反発心なのです。(基本的に叱られている理由自体は棚に上げて考えます・・・笑)

我が子に自立してもらうためには、お子さんが自分の意思を示した時には、できるだけ自分で決めさせてあげることが大切です。

もちろん何でもかんでもOKということではなく、礼儀や道徳に関することなどは「ダメなものはダメ！」で結構ですが、それ以外のことに関しては一方的に「～しなさい」ではなく、親の意思・意見を伝えたくて、我が子の意思・

意見も言ってもらい、お互いの納得解を求めていけばよいのです。

子どもの意思を尊重せず、親が一方的に指示をしていけば、いつまでも親の言うことを聞くだけで、自分で考えて行動することができなくなってしまいます。

【situation②】

「なぜ勉強しないとダメなの？」
と聞かれた場合

(良い声掛け)

人に「ありがとう」と
言うためよ

(悪い声掛け)

いい会社に入って、
安定した生活をするためよ

ひと昔前までは学歴で就職が決まり、入社してしまえば年功序列、終身雇用の時代だったので、上記の悪い声掛けが正解であったと思います。

しかし今では時代が大きく変わり、大企業も数千人単位のリストラを敢行したり、安定の代名詞であった公務員も、非正規労働者が4割

になる時代です。残念ながら、今の社会や会社に「勉強を頑張る＝安定した将来」という保障を求めることはできないのです。

ですから勉強をする理由を問われたときは、その理由を答えるよりは、子供の勉強のやる気に繋がるといえるような、もっと根本的な動機付けをしてあげて欲しいのです。

どんな人でも、人に「ありがとう」と言ってもらうことは嬉しいことです。

そしてそれが仕事に繋がれば収入になります。

人にたくさん「ありがとう」と言ってもらえる人、すなわち「自分の培ってきたものを自分の為だけに使わず、人のために使える人」はどれだけ時代が変わろうと、人から必要とされます。

以前MAC NEWSでも書きましたが、東大の入学式のスピーチで上野千鶴子さんが同じことを仰っていましたね。

つまり、人のために動ける子(人に「ありがとう」と言ってもらえる子)はこれからの時代でも「安定」を手に入れられるのです。

【situation③】

勉強に対する「ご褒美」
を用意する場合

(良い声掛け)

勉強頑張っているね

⇒(努力にご褒美)

(悪い声掛け)

100点とったら何か買ってあげる

⇒(結果にご褒美)

アメリカのハーバード大学であるご褒美の方が、勉強へのやる気が出る」ということがこの調査から分かったのです。

小中学生を対象に、「結果に対してご褒美を用意するグループ」と「努力に対するご褒美を用意するグループ」の二つのグループに分け、成績の比較を行ったのです。

まずはどちらのグループにも「2週間後にテストをします」と伝え、結果に対してご褒美を用意するグループの方には100点を取ったらご褒美をあげると伝え、勉強をしてもらいます。

「努力に対してご褒美を用意するグループ」の方には、毎日ドリルを1ページしたらご褒美をあげると伝え、勉強をしてもらいます。

2週間後、良い結果を出したのは「努力に対してご褒美を用意するグループ」の方だったのです。

詳しく調べてみると、努力したらご褒美がもらえる子供たちは、すべきことが明確なのでモチベーションが保ちやすく、学習を継続することができたので好成績につながったようでした。

それに比べて結果がでたらご褒美がもらえる子供たちは、100点を取るための効率の良い勉強方法が分からない、今のやり方で100点が取れるのか不安になる・・・などの理由でモチベーションが下がり、学習を継続することができなかったため、結果に繋がらなかったのです。

つまり、「子供は近い将来の確

実にご褒美の方が、勉強へのやる気が出る」ということがこの調査から分かったのです。

これからご家庭で何かご褒美を用意する場合は、例えば「毎日〇〇を続けることができればご褒美」のように、日々の努力に対してご褒美を用意するようにしてください。

そうすれば、続けることでそれが習慣となり、習慣となることで継続することができ、結果的に成績が良くなるのです。(そのうちご褒美なしでも継続できるようになります)

84歳で亡くなられた元プロ野球選手であり名監督だった野村克也さんは生前このような言葉を残されています。

『人間は成功すること(結果)より、努力すること(過程)に意義がある』

「努力が大切」ということは大人なら誰しも疑う余地もない事実だと理解していますが、子供が努力を続けられる環境をつくるのはなかなか難しいものです。

すぐに結果が出なかったり、なかなか成果が目に見えないと「今やっていることは意味があるの？」と考えてしまいがちですが、子供たちは子供たちなりに、色々と考えたり、努力を続けています。

まわりができるのはそんな子供を応援し、励ますこと。私自身も子育てや教育は本当に『忍耐』の一言に尽きると思う今日この頃です・・・

【参考資料：子供の成績を伸ばす親と伸ばせない親の習慣(明日香出版社)】